

2023年度 長野 陸上競技協会 事業報告 (2024/6/10 日本陸連提出)

1. 選手強化 (競技の研究や選手指導など)

次の事業について競技者を派遣した。全国小学生交流大会、特別国体、東日本女子駅伝、U16・リレー大会、東日本女子駅伝、全国都道府県対抗駅伝。これらの派遣に伴う強化合宿・練習会・クリニック、指導者講習会の実施。強化部が開催する国体候補・一線級強化練習会等は、中学2年生以上のジュニア世代も含め実施した。結果は、全国小学生優勝1名、2位3名、C決勝を含む7種目に入賞、全日本中学3名入賞、全国高校優勝1を含む入賞8、高校定通入賞3、全国高専総合男女とも2位、国体天皇杯53点20位、皇后杯31点18位、東日本女子駅伝9位、全国高校駅伝男子優勝、女子5位、全国都道府県対抗駅伝男子優勝、女子11位など成果を高めた。なお、永原颯磨(佐久長聖高校)が3000mSCで日本高校新記録を樹立するなど活躍し、日本陸連第10期ダイヤモンドアスリートに認定された。第25回アジア陸上競技選手権大会(バンコク、7/12~7/16)には、児玉悠作(ノジマ)が男子400mHで2位、川元奨(スズキ)が男子800mで8位、君嶋愛梨沙(土木管理総合)が女子100mで5位に入賞した。第19回世界選手権(ブダペスト、8/19~8/23)は児玉(400mH)と君嶋(女子100m)が選出され、第19回アジア競技大会(杭州、9/29~10/5)には児玉(男子400mH)と川元(男子800m)が選出され出場したが、入賞には至らなかった。

2. 普及育成 (講習会の開催および指導者の養成など)

- ・全国小学生交流大会出場者練習会(8月)、選抜練習会(11月、R6年3月)はジュニア部と合同で実施した。JAAF-STARTによる小学生のみのクラブ登録は2団体、登録競技者数は824名となった。
- ・公認コーチは県教委スポーツ課競技力向上対策本部並びに国スポ準備室の助成を得て、コーチ3を2名、コーチ1を9名が取得し、コーチ3は3名が継続受講となった。

3. 競技会の開催

本協会主催(中・高体連を含む)21大会を実施し、日本陸連他主催第25回長野マラソンの主管、全日本大学駅伝北信越予選会及び北信越学生選手権の運営協力を行った。県障がい者大会を4年ぶりに開催した。

4. 審判員の養成およびその資格を認定

今年度は、昇格者S級3名、A級4名、B級新規取得73名(一般36名・高校・高専3年生37名)となった。2018年度から実施している高校3年生を対象とした講習会を今年度も別枠で実施(地区新人大会時)し、取得を勧めた。長年のB級審判員に、A級昇格を強く働きかけた。

5. 機関紙および刊行物の発行

- ・「2023年度年報」を7月15日に発行し、審判登録会員全員に配布した。
- ・「会報」はJSC(独立行政法人日本スポーツ振興センター)「スポーツ振興くじ」の助成を得て、178号(7月18日)、179号(12月1日)、180号(R6年3月17日)を各3000部発行した。
- ・長野陸協ホームページ上で、各種事業・大会等、日本陸連、日本スポーツ協会、長野県スポーツ協会、長野陸協協賛企業各社他の情報を随時提供した。
- ・「長野の陸上競技2023総集編」(中学・高校生版：(株) 杏花印刷、R6年3月10日発売)を監修した。

6. その他 (陸上競技協会の目的を達成するために必要な事業)

- ・2028年に開催が内定した信州やまなみ国スポ・全障スポに向けてプロジェクトを進めた。
- ・当協会各種規程等の見直しを行った。
- ・一般財団法人向けガバナンスコードJSP0対応自己説明最新版は2024年3月29日にWeb上で公開した。
- ・2024年2月17日(土)に当協会アスレティックス・アワード、全国都道府県対抗男子駅伝優勝祝賀会並びに内山了治会長代行秩秩父宮章受章祝賀会を在広島信州県人会会長、阿部守一県知事はじめ来賓60名余りのご臨席を賜り開催した(出席者数163名)。